

平成 30 年度

(平成 30 年 (2018 年) 4 月 1 日～平成 31 年 (2019 年) 3 月 31 日)

事業報告書

公益財団法人浜松国際交流協会

目次

事業実施の背景と取り組み	3
事業報告 多文化共生のまちづくり	
1. 相談事業	5
①外国人市民のための生活相談（市委託：多文化共生センター事業）	
②ワンストップ相談コーナーの運営（他機関連携事業）	
③出張相談（市委託：多文化共生センター事業）	
④中国残留邦人支援事業（市委託事業）	
⑤法律相談（自主事業）	
⑥行政書士相談（自主事業）	
⑦税務相談（自主事業）	
⑧メンタルヘルス相談（市委託事業）	
⑨ソーシャルワーク研修（市委託：多文化共生センター事業）	
⑩コミュニティ・エンパワメント（市委託：多文化共生センター事業）	
2. 日本語学習支援事業	12
①日本語学習支援講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
②学習支援ボランティア養成講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
③地域日本語学習支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業、自主事業）	
3. 外国につながる次世代支援事業	17
①外国人の子どもへの不就学ゼロ作戦（市委託：外国人学習支援センター事業）	
②定住外国人の子どもへの就学促進（市委託：外国人学習支援センター事業）	
③外国につながる青少年のキャリア支援（市委託：外国人学習支援センター事業）	
④外国につながる就学前の子どもと保護者の子育て支援（自主事業）	
⑤シンポジウム浜松市における多文化共生の現状と課題（自主事業）	
⑥浜松グローバルユース育成検討事業（文化庁事業）	
4. 地域共生事業（市委託：多文化共生センター事業）	28
①各地域への個別支援	
②地域共生自治会会議	
③ブリッジビルダー育成	
5. 多文化防災事業（市委託：多文化共生センター事業）	30
①災害時多言語ボランティア養成研修	
②災害時多言語支援センター設置訓（災害時に備えたネットワークの強化）浜松	
③災害・防災情報の提供	
6. 多様性を生かしたまちづくり事業（市委託：多文化共生センター事業）	31
①はままつ多文化共生 MONTH 事業	
②文化・スポーツ紹介	
③地域活性化事業	

グローバル感覚に優れた人づくり

1. グローバル人材の育成と活用	34
①地球人教育出前講座及びコーディネート（市委託：多文化共生センター事業）	
②グローバル人材セミナー（市委託：多文化共生センター事業、自主事業）	
③国際理解教育講座（自主事業）	
④第9回はままつグローバルフェア（自主事業）	
⑤多文化体験・交流事業（市委託：外国人学習支援センター事業）	
⑥ホストタウン・ボランティア養成のための講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
2. 国際交流・理解事業	
1) 外国語講座	41
①国際交流のための外国語講座（自主事業）	
②国際交流のための外国語サロン（自主事業）	
③外国人支援者のためのポルトガル語講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
2) 交流イベント(自主事業)	44
①親子で English & キッズ English	
②多言語 de 世界のクッキング体験	
③ダビッドさんと英語であそぼう！	
④第8回ポルトガル語スピーチコンテスト	
⑤HICE35周年記念誌「世界の人と暮らして」刊行記念イベント	
3. 担い手の育成：ボランティア活動支援事業（自主事業）	46
①HICE ボランティアバンクの運営	
②ホームステイ・コーディネート	
4. 担い手の支援：国際交流活動支援事業	47
①多文化共生・国際交流推進事業費補助金の交付（浜松市補助金）	
②天竜地域事業（市委託：外国人学習支援センター・自主事業）	
③セミナールームの活用（市委託：多文化共生センター事業）	
④多文化共生・国際交流活動支援事業（市委託：多文化共生センター事業）	
5. 情報提供事業	50
①機関紙 HICE NEWS の発行（自主事業）	
②ホームページの運営（自主事業）	
③Facebook の運用（自主事業）	
④HICE info メールによる情報配信（自主事業）	
⑤CIR NEWS の配信（自主事業）	
⑥情報カウンターの設置（市委託：多文化共生センター事業）	

事業実施の背景と取り組み

我が国に在留する外国人は 2018 年 12 月末で 273 万人の過去最高に上り、働く外国人も 146 万人と近年増加傾向にある。こうした中、昨年 12 月には在留資格「特定技能」を新設する改正入管法が成立し、また「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」も関係閣僚会議において決定されるなど、昨年度は外国人材の受入れに係る法改正と環境整備が大きく展開した年であった。

これまで、我が国での就労が認められる外国人は、高度な知識・技術が求められる分野や外国人にしかできない専門技術（語学や外国料理などの技術）が中心であり、単純労働も含めたいわゆる一般労働（一般的な業種）は、本来は就労目的の在留資格ではない「定住者」「技能実習生」「留学生」などを持つ人々が担ってきた。

この度の法改正に伴う新しい在留資格「特定技能」は、普通に働く「労働者」として初めて外国人を正面から受け入れることを決めたもので、政策の大転換とも言える。しかし一方、外国人との多文化共生を目指すための社会統合政策については、これまで行ってきた取り組みの拡充が中心で、国を挙げて取り組むという根本的な政策転換は見られない。今後において、実際に外国人が暮らす地方自治体の実情を踏まえたきめ細かな支援に期待したい。

このような変化の中、本地域は法務省「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」検討会における取り組みの報告や、法務大臣の視察を受けるなど、多文化共生の地域づくりの先進地として全国に関連団体やマスコミからも注目され取材や視察が非常に多い年であった。11 月には、天皇皇后両陛下の外国人学習支援センターへのご訪問も重なり、世間での注目度も一気に高まった。

こうした中、当協会においては平成 30 年度の重点施策として「外国につながる次世代支援」を掲げ、「外国にルーツを持つ就学前の子どもと保護者の子育て支援」および文化庁委託事業である「浜松グローバル・ユース育成検討」を先進事例として取り組んだ。また、「多文化防災」事業として、外国人市民の主体的なかかわりのもと災害時多言語ボランティアの育成研修を定着化させるとともに、新たな取り組みとして、アート分野との連携により、多文化共生が地域の活性化やまちづくりにつながる可能性を掘り起こすことができた。

組織運営面においては、協会の総務部門を担う人材を正規職員として登用したほか、外国人学習支援センターの施設管理業務の受託に伴い、管理を担う職員を正規採用、さらに外国にルーツを持つ職員を正規採用するなど、組織の管理体制の安定化及び事業の専門性を高めるための人材確保に努めた。

公益 1 多文化共生のまちづくりと グローバル感覚に優れた人づくり

多文化共生のまちづくり

相談事業 p. 5

多言語生活相談、出張相談、ワンストップ相談(入国管理)、法律相談・行政書士相談・税務相談、メンタルヘルス相談、中国残留邦人支援、ソーシャルワーク研修

日本語学習支援事業 p. 12

日本語教室、支援者養成講座、教職員多文化共生講座、地域日本語学習支援

外国につながる次世代支援事業 p. 17

外国人の子どもの不就学ゼロ作戦、定住外国人就学支援教室

【重点】外国にルーツを持つ青少年のキャリア支援

**【新規・重点】外国にルーツを持つ就学前の子どもと
保護者の子育て支援事業（クリア助成金）**

【重点】浜松グローバルユース育成検討事業（文化庁委託）

地域共生事業 p. 28

地域共生活動支援、地域共生自治会会議、ブリッジビルダー育成

多文化防災事業 p. 30

災害時多言語支援センター設置訓練、災害時支援ネットワーク構築

【重点】災害時多言語ボランティア養成研修

多様性を生かしたまちづくり事業 p. 31

多文化共生 MONTH、文化・スポーツ紹介、地域活性化事業

グローバル感覚に優れたひとづくり

グローバル人材の育成と活用 p. 34

グローバル人材セミナー、地球人教育出前講座、国際理解教育講座、グローバルフェア、

【新規】ホストタウン・ボランティア養成

国際交流と国際理解の推進 p. 41

国際交流・国際理解イベント、外国語講座、フェアトレード啓発

地域創造の担い手の育成と支援 p. 46

ボランティアバンクの活用、補助金交付事業

情報収集・提供 p. 50

HICE NEWS、ホームページ、フェイスブック、メール配信、情報コーナー

多文化共生社会の推進

多文化共生センター

外国人学習支援センター

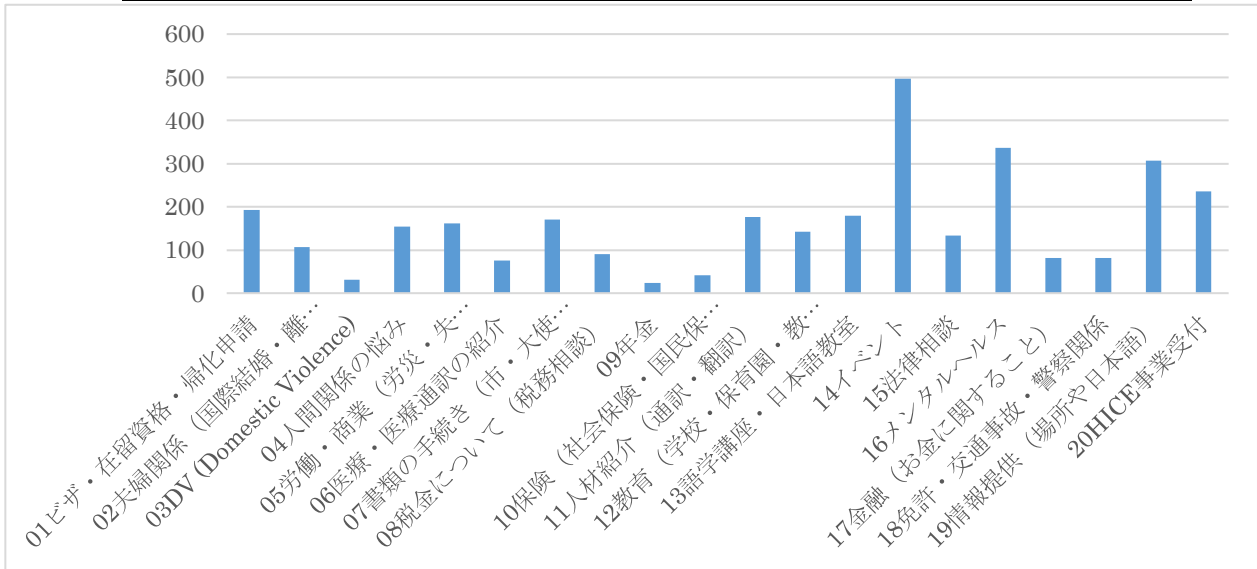
事業報告

多文化共生のまちづくり

1. 相談事業

① 外国人市民のための生活相談（市委託：多文化共生センター事業）（3,829件）

言語	曜日	時間	相談件数	昨年度
ポルトガル語	火曜日～日曜日	9：00～17：00	2,174	2,545
スペイン語	日曜日	13：00～17：00	184	336
タガログ語	木曜日	13：00～17：00	226	237
中国語	金曜日	13：00～17：00	58	72
英語	月曜日～金曜日	13：30～16：30	86	141
日本語	月曜日～日曜日	9：00～17：30	1,101	1,321
その他			0	5
合計			3,829	4,657



ビザ・在留資格	夫婦関係(離婚他)	DV(Domestic Violence)	人間関係の悩み	労働(労災・失業・起業)	医療・医療通訳の紹介	書類の手続き	税金	年金	保険(社会保険等)	人材紹介(通訳・翻訳)	教育(学校・保育園)	語学講座・日本語教室	イベント	法律相談	メンタルヘルス	金融(お金に関すること)	免許・交通事故	情報提供(場所など)	HICE事業の受付	その他
193	107	31	154	162	76	170	91	24	42	176	142	180	496	134	337	81	82	307	236	608
合計 3,829件																				

■相談内容・傾向

英語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語以外の言葉を話す外国人からの相談が増え続けている。また、企業や自治会、受け入れる社会側からの相談が昨年と引き続き寄せられている。外国人からの全体の相談内容は市内で行われているイベント情報はじめ、金銭や心理的な相談、行政の手続き、年金などについての相談が多かった。

■各言語別の傾向

ポルトガル語	初来日したブラジル人からの相談も含め「日本語教室」や「住宅ローン」「無期限雇用」「金銭トラブル」「離婚」「コンビニで取得する印鑑証明書」、「特別児童扶養手当」などについての相談があった。
スペイン語	ペルー人からの相談が多かった。夫婦関係や金銭的なトラブル、自閉症、交通事故、子どもの監護権などの相談があった。日本語の話せる人でもトラブルに巻き込まれると通訳を頼む人もみられた。
タガログ語	生活保護受給者からの求職についての相談や子どもの監護権、確定申告、年金などについての相談があった。昨年と同様に呼び寄せや国際結婚・離婚についての相談もあった。
中国語	帰化申請や再入国の手続き、医療通訳の紹介、教育と住宅ローンなどについての相談があった。
英語	英語が通じる施設等（保育園、病院、弁護士、学校）や日本語教室、在留資格の変更手続き、高度人材のポイントについて、難民申請中のアフガニスタン人から仕事・住居を探しているなどの相談があった。
日本語	企業や自治会などの受け入れ社会側から外国人住民の状況やニーズ、基本情報についての相談が増えた。国際結婚や在留資格の変更、介護施設等による通訳紹介依頼などの相談があった。

■課題

多国籍の人からの相談が増え続けている他、在留資格に関することなど専門的な相談があるため、専門機関との連携と相談員の専門性が求められている。ブラジル人やペルー人など外国人によっては高齢化も進んでいるため、介護施設からは通訳の紹介やブラジル・日本の年金協定についての相談も目立ってきている。

関係機関からは通訳の紹介依頼や外国人受け入れについての相談もあり、今後受け入れ社会側にも活用してもらえる HICE のサービスや中間支援団体としての役割について広報していく必要がある。

② ワンストップ相談コーナーの運営（他機関連携事業）（137 件）

入国管理局と連携して、専門相談の窓口を配置した。

毎週水曜日 9：00～12：00、13：00～17：30

相談件数：延べ 137 件

③ 出張相談（123 件）

日 程 6月24日（日）、7月29日（日）

出張先 浜松市総合産業展示館（浜松カトリック教会主催 フェスタジュニーナ）、ソラモ（ペルーフェスタ）

相談件数：123 件

④ 中国残留邦人支援事業（市委託事業）（492 件）

中国在留邦人とその配偶者で、世帯の収入が一定の基準に満たない者に対し生活支援費を給付する際の業務補助、相談、通訳等の支援のために、相談員を配置し、通訳を派遣した。

■市内区役所（中・南・東・北）の福祉事務所に中国語による支援相談員 1 人を配置

日 時 週 3 日 13：00～17：00（145 日）

相談内容 病院にかかる際の言葉の心配、介護サービス申請の支援、子弟の教育や就職など

相談件数 延べ 305 件

対 象 12 世帯 16 人

■医療機関等へ通訳を派遣

件 数 187 件

対 象 13 世帯 39 人

⑤ 法律相談（自主事業）（60 人）

毎月最終木曜日に弁護士による法律相談を行った（12 月を除く 全 11 回）。

相談者数 延べ 60 人

協 力 静岡県弁護士会、関東弁護士連合会（11 月の拡大法律相談）

⑥ 行政書士相談（自主事業）（18 人）

毎月第 2 日曜日に日本での営業許可、国際結婚、会社設立、在留資格などの行政書士相談会を行った（2 月を除く 全 11 回）

相談者数 延べ 18 人

協 力 静岡県行政書士会 西遠支部

⑦ 税務相談（自主事業）（46 人）

日 時 平成 31 年 2 月 2 日（土）9：30～16：30

内 容 確定申告を必要とする外国人を対象に、通訳（ポルトガル語、スペイン語、タガログ語）をつけて、申告がスムーズに行えるように支援した。

参加者 相談者 36 人、通訳 5 人、税理士 5 人 合計 46 人

協力 東海税理士会浜松西支部

⑧ メンタルヘルス相談（市委託事業）（821 件 114 人）

ブラジル人心理士 2 人を配置し、ポルトガル語でのメンタルヘルス相談及び精神科等への同行通訳を行った。

■相談

日時 週 5 日 9:00～17:00 週 2 日（火・金）は 13:00～20:30

件数 延べ 487 件（カウンセリング 454 件、相談 33 件）（前年度 714 件）

内容 カウンセリング 454 件の内訳

相談者実数	187 人
新規	127 回 (28%)
継続	327 回 (72%)
出身国	ブラジル人 435 件 (96%)、ペルー人 16 件 (3%)、その他 3 件 (1%)
年齢	大人 349 件 (77%) 子ども 105 件 (25%)
時間帯	昼 335 件 夜 119 件

ケース例 ・身体的な健康問題（癌、糖尿病）により、心の健康問題を発生。

- ・精神病院に入院している患者からの依頼で病院へ行き、カウンセリングを行った。
- ・個人的な問題解決の無力感から自殺をほのめかした。
- ・自尊心が低く、積極的になれず、人間関係にも困難を感じている。
- ・人生の方針や中心となるものに関して、夫婦の間で葛藤。
- ・シングルマザーが子育ての際に育児や教育に対しての責任を一人で負うことが負担。
- ・保護者と思春期の子どもの関係の難しさ、若い世代の考え方やアイデンティティなどの理解に保護者が苦しむ。
- ・感情や愛情等の深い関わりや別れによるトラウマ。
- ・子どもに特別学級を勧める日本の学校と保護者との間で葛藤。
- ・職場内での人間関係の難しさに悩む。

■通訳派遣

通訳件数 延べ 334 件（依頼数 377 件、うちキャンセル 43 件）（前年度 315 件）

内容 受診に関しては、子どもの割合が多く今年度は 7 割以上が子どもだった。発達に困難を抱えるケースが多い。大人に関しては 3 名の入院患者への同行通訳を行った。入院の場合は 1 週間に 1 回ぐらいのペースで受診するので多い時は月に 9 回の依頼があった。退院後の通院も月に 1 回～2 回あり、かなりの時間をさいている。

問題点としては発達困難や病気だけにとどまらず、家庭内での問題（親子関係、夫婦関係、性的を含む虐待）や失業等の問題を伴うことが多いため、総合的な支援が必要になることがあり、対応が難しいことがあげられる。

病気の改善、発達の進み具合、日本語の理解力により同行通訳の必要性がないと判断

した場合、患者と医師と話し合い、通訳のみ終結にするケースも目立ってきている。

課題 医療通訳だけにとどめるのは難しいのが現状である。何故なら、教育委員会、児童相談所、保育園等の機関との関連、療育手帳、特別児童扶養手当、自立支援の手続きや更新についても説明が必要であり、切り離すことは出来ない。更に、待合室で様々な相談を持ちかける患者もいるので、相談員役をせざるを得ない。同行通訳の依頼がこれ以上増えると、全てのニーズに応えることが難しくなる可能性もある。

最近はポルトガル語以外の言語についての依頼も時々あるが、それについては専門的な知識を持った通訳を無料で派遣するだけの人材と制度が整っていないため、十分な対応ができていない。しかし、今後多言語のニーズも増えると思われる。

■ペアレント・トレーニング指導者養成研修

発達障害の子どもに対する親の接し方を指導する「ペアレント・トレーニング」講座をポルトガル語やスペイン語で直接外国人保護者に行うことのできる指導者を養成する研修を平成 25 年度より行っている。

今年度は、平成 25 年度から平成 29 年度にかけてペアレント・トレーニング研修を受けてきた 7 名を対象にペアレント・トレーニング指導者養成研修会を継続して 4 回行った。そのうち 3 回は研修の一環として保護者向けに実践を行った。

内 容 ①ペアレント・トレーニング指導者養成研修（準備研修）

日 時：9 月 16 日（日）9：30～11：00

アドバイザー：野村和代（常葉大学講師）

参加者：6 人（ブラジル人・ペルー人）

②ペアレント・トレーニング指導者養成研修（実践研修 3 回）

日 時：10 月 14 日、10 月 28 日、11 月 11 日 各日曜日 9：30～11：00

アドバイザー：野村和代（常葉大学講師）

参加者：研修参加者計 22 人 コーディネーター 4 人

保護者計 7 人

延べ 33 人（ブラジル人・ペルー人）

成 果 今年度は、以前からペアレント・トレーニング指導者養成研修に参加してきた 7 名が交代で講師を務め実践した。また、以前ペアトレに参加した保護者をゲストに招き、同じ背景を持つ保護者同士が発達に困難を抱える子どもについて話し合うことでピアサポートも試み、効果があった。

■メンタルヘルスに関する啓発講習会（小集団活動）

① 就学前子ども支援プロジェクト — ブラジル人託児所（Pimentinha Kids）

日 時 12 月 23 日（日）10:00～12:00

場 所 多文化共生センター

参加者 35 人

内容 平成 25 年より、ペアレント・トレーニング指導者養成研修を受けてきたメンバーがブラジル人託児所（Pimentinha Kids）の保護者にペアレント・トレーニングを行った。

②HICE メンタルヘルス交流会（メンタルヘルスサービス利用者交流会）

日 時 平成 31 年 3 月 10 日（日）14：00～16：00

場 所 多文化共生センター

参加者 38 人（ブラジル）

内 容 講話「日本の生活とメンタルヘルスケア」
HICE の事業と外国人支援サービスの紹介
参加者同士の情報交換、交流会

③「感情に基づく人間関係」

日 時 平成 31 年 3 月 16 日（土）9：00～10:30

場 所 多文化共生センター

参加者 ブラジル人 2 人

内 容 同じ悩みを抱えている人たちが話し合いともに助け合うピアサポートの機会を提供。

⑨ソーシャルワーク研修（市委託：多文化共生センター事業）（105 人）

内 容 市や各機関・企業等の通訳や相談員が、多種多様な通訳場面や相談に対応するために、専門的知識を習得し、外国人市民の生活支援にあたるためのノウハウや心構えを学ぶ研修を行った。

対 象 各機関で外国人の通訳や相談にあたるバイリンガル者
ブラジル、ペルー、アルゼンチン、中国、フィリピン、日本

日時	テーマ	講師	参加者数
9 月 15 日（土） 14:00～16：00 会場：多文化共 生センター	通訳の技法	李 裕美（NPO 法人多 言語支援センター FACIL）	37 人
11 月 30 日（金） 13:30～16：30	行政用語の適切なポルト ガル語について	駐在ブラジル大使館 通訳・翻訳専門官	19 人
12 月 1 日（土） 10:30～17：30	ポルトガル語ワーク ショップ	カミウンテン・ミゲ ル（ブラジリアカト リック大学）	17 人
2 月 2 日（土） 14：00～16：00	交通安全セミナー	静岡県警察本部 交 通部交通企画課 あいおいニッセイ同 和損保	32 人
合計			105 人

⑩コミュニティ・エンパワメント（（市委託：多文化共生センター事業）（217人）

内 容 国籍別・言語別にそれぞれのニーズに応じてテーマを設定し、各言語によるセミナーを行った。

対 象 各外国人コミュニティの一般人

日程	テーマ	講師	参加者数
6月3日（日） 10:00～11:30 会場：多文化共生センター	（ブラジル人対象） 「ストーリーテリング」	・サンチアゴ・エジジェナルダ（ストーリーテラ） ・三島リリアン（NPO SOS ママの会）	25人
10月20日（土） 10:30～14:30 会場：多文化共生センター	（ブラジル人対象） 「NOと言えるために」	・レナタ・ベルチ・メンデス（心理士） ・ソノダ・ケンジ（ブラジル柔術先生）	35人
11月18日（日） 14:00～16:00 会場：中央図書館	（ブラジル人対象） 「ストーリーテリング」	サンチアゴ・エジジェナルダ（ストーリーテラ）	15人
3月23日・24（土・日） 10:00～17:30 会場：地域情報センター／多文化共生センター	（ブラジル人対象） 親子で学ぶ震災時の対応 フィリピンナガイサ共催	Gilmara Martins（キラリ・プロジェクト） Tatiana Mazza-Surer（オーストリアより） Susana Ramos Ventura（ブラジルより） Sara Hayakawa da Costa（名古屋経営短期大学ポルトガル語准教授） Patrícia da Paz Veldink（アメリカより）	110人
3月13日（水） 18:15～19:30	（ベトナム人対象） 防災セミナー	・浜松市危機管理課 ・鈴木里枝子（浜松子育て支援ネットワークぴっぴ）	32人
合計			217人

2. 日本語学習支援事業

①日本語学習支援講座（市委託：外国人学習支援センター事業）（5,082人）

（前年度 5,625人）

在住外国人に対して日本語支援を行う地域日本語教室。日常生活を行う上で必要な日本語コミュニケーション能力を学ぶ初級クラス、読みものからコミュニケーションを学ぶ初級（読みもの）クラス、日本語能力試験のN4合格を目指すN4クラス、ひらがな、カタカナ、初級レベルの漢字、読みもの等を学ぶ読み書きクラスを開催。

協働団体：With U-Net

○初級クラス （受講者数 延べ5,082人）

	講座名	回数	日付	受講者
第1期	初級	73	4月16日～9月14日	1,395人
第2期	初級	73	10月9日～3月14日	948人

○初級（読みもの）クラス

	講座名	回数	日付	受講者
第1期	初級（読みもの）	28	5月9日～7月13日	303人
第2期	初級（読みもの）	28	10月26日～1月16日	229人

○日本語能力試験N4クラス

	講座名	回数	日付	受講者
第1期	日本語能力試験N4	26	8月22日～11月28日	247人

○読み書きクラス

	講座名	回数	日付	受講者
第1期	読み書き	39	5月8日～9月27日	1,113人
第2期	読み書き	40	10月9日～3月12日	847人

②学習支援ボランティア養成講座（市委託：外国人学習支援センター事業）（852人）

■日本語ボランティア養成講座

地域における日本語学習支援で必要とされる知識や技術を学ぶボランティア養成講座を開催。

協働団体：はままつ国際理解教育ネット、With U-Net、NPO法人おおさかこども多文化センター、

NPO アラッセ、にほんごNPO、浜松市教育委員会、U-ToC外国人サポーター

全16回／各期

	期間	受講者
第1期	6月5日～10月16日	延べ227人
第2期	11月5日～3月12日	延べ285人
合計		512人

プログラム例：日本語文法への入口、異文化理解ワークショップ、外国語体験、外国人児童の現状、ボランティア体験

■日本語ボランティア実地研修

日本語教室を見学し、他者の活動内容や教授技術を学ぶ。
 教室後の振り返りに参加し、参考になった点や気付いた点を述べ技術を高め合う。
 見学シートを提出し、他者の教室活動を客観的に評価するとともに自己研鑽に努める。

日本語教室・初級クラス	延べ 30 人
日本語教室・初級読み物クラス	延べ 2 人
日本語教室・読み書きクラス	延べ 47 人

■日本語学習支援者スキルアップ講座

(全 6 回)		(受講者数 延べ 111 人)		
回	日時	内容	講師	受講者
1	4 月 9 日 (月) 11:00~12:00	With U-Net 研修会 日本語教室をのぞいてみると	内山夕輝 (HICE)	45
2	4 月 11 日 (水) 9:30~11:00	できる日本語 (初級) を使って教 えよう	針山摂子 (With U-Net)	8
3	10 月 10 日 (月) 13:30~15:00	地域日本語教室で実践! 「できる日本語」の教え方	嶋田和子 (一般社団法人アクラス 日本語教育研究所)	10
4	10 月 10 日 (月) 15:00~16:30	地域日本語教室で実践! 「できる日本語」の教え方	嶋田和子 (一般社団法人アクラス 日本語教育研究所)	10
5	11 月 28 日 (水) 9:30~11:00	With U-Net スキルアップ研修 ポルトガル語で自己紹介	椎木マリナ (セメンチ・パラ・オ・フ トゥーロ)	19
6	12 月 25 日 (火) 13:30~15:00	放課後学習支援者のための 学校理解講座	高島美保 (浜松市教育委員会教育 総合支援センター)	19
総合計				111 人

■教職員多文化共生講座

小中学校教職員等外国人支援者を対象の夏季集中講座。
 共催：浜松市教育委員会「平成 30 年度第 3.4 回外国人児童生徒指導リーダー研修会」
 協働団体：セメンチ パラ オ フトゥーロ

8月1日(水) 9:30~16:30		(受講者数 延べ150人)			
回	時間	内容	講師		受講者
1	9:45~ 10:45	学校で使えるポルトガル語(外国語授業体験)	椎木マリナ	セマンチ パラ オ フターロ	30人
2	11:00~ 12:00	ブラジルの学校と日本の学校の文化の違い	柳澤クリスチーナ	セマンチ パラ オ フターロ	30人
3	13:15~ 13:45	外国人学校「ムンド・デ・アレグリア学校」見学	松本雅美	ムンド・デ・アレグリア学校	30人
4	14:00~ 15:15	「ひょうたん島問題」から多文化共生を考える	内山夕輝	公益財団法人浜松国際交流協会	30人
5	15:30~ 16:15	実践演習「多文化共生について考えたこと」	高島美保	浜松市教育委員会 教育総合支援センター	30人

③ 地域日本語学習支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業、自主事業）

■日本語学習支援団体ネットワーク会議

日本語学習支援団体間の情報の共有や共通課題の克服のためにネットワーク会議を開催した。

参加者数 11人 「第1回放課後学習支援団体情報交換会」

回	日時		参加団体	参加者
1	12月25日 (月)	15:00~15:30	浜松市教育委員会、浜松国際交流協会、放課後支援団体（龍の会、南の星小学校放課後勉強室、そらの会、浜名外国人サポーター、KSC子どもサポーターズクラブ）	11人

■地域日本語学習コーディネート業務

- ・養成講座修了生による自主グループ「おしゃべりタイム」運営支援

おしゃべりタイム

日本語ボランティア養成講座修了生による自主グループ活動支援。おしゃべりをしながら交流できる場を提供

(全15回)		(参加者数 延べ256人)		
	開催日	テーマ	参加者数	
1	5月9日	自己紹介	29	中国6、ペルー2、インド6、ブラジル1、フィリピン1、インドネシア1、ベトナム1、日本11、
2	5月28日	天気・旅歩き	17	中国3、インド4、ベトナム1、日本9
3	6月12日	病気（食中毒）	22	インド5、ブラジル1、ブラジル1、インドネシア1、ベトナム1、タイ2、日本11

4	6月28日	七夕	22	中国6、インド2、ブラジル1、インドネシア2、ベトナム1、タイ1、マレーシア1、日本8
5	7月20日	夏祭り	14	中国1、インド1、インドネシア1、ベトナム2、日本9
6	8月23日	夏休み	25	中国3、インド3、ブラジル1、インドネシア1、ベトナム3、タイ2、日本12
7	9月4日	祝日	-	台風のため中止
8	10月18日	スポーツ	19	中国1、ブラジル1、フィリピン1、インドネシア1、ベトナム5、ケニア1、カメルーン1、日本8
9	11月5日	旅行	15	中国4、ペルー1、ブラジル1、ベトナム3、カメルーン1、台湾1、日本4
10	11月29日	紅葉	25	中国1、ブラジル1、フィリピン1、ベトナム4、タイ1、カメルーン1、台湾1、日本15
11	12月12日	クリスマス	15	ブラジル3、ベトナム3、タイ1、カメルーン1、台湾1、日本6
12	1月15日	お正月	16	ブラジル1、フィリピン1、ベトナム3、カメルーン1、台湾1、日本9
13	2月7日	節分	6	ブラジル2、インドネシア1、ベトナム1、フランス1、台湾1
14	3月5日	卒業	7	台湾1、フランス1、日本5
15	3月26日	お花見	24	中国4、インド2、インドネシア5、タイ2、ベトナム2、バングラデシュ4、日本5

■日本語学習支援ボランティアコーディネート

日本語ボランティア養成講座修了生の活動支援等 24件

■日本語コーディネート（自主事業）

企業内日本語教室コーディネート	1件
企業への日本語教師募集協力	3件
個人への日本語プライベートレッスンマッチング	5件
高校への異文化理解講師募集協力	1件

■高校生への日本語支援事業（自主事業）

【日本語学習支援教室】

派遣先 静岡県立浜松工業高等学校(定時制) (4月12日～2月28日 計29回)

対象者5人(延べ42人)

派遣者 日本語教師1人、外国にルーツを持つ大学生(ボランティア)1人

【進学相談】

公立高校（定時制）卒業生より、大学進学についての相談対応。受験指導。

期 間 平成30年7月13日（金）～平成31年2月19日（火）

■フィリピン人児童・生徒を対象とした就学支援教室（ハロハロ教室）（657人）

協力 NPO法人フィリピンナガイサ

会場 南部協働センター

期間	曜日	時間	参加者（延べ）	
			はじめての日本語教室	寄り添い教室
5月12日～3月16日 （全33回）	土曜日	13:30～15:30	151人	506人

昨年度と比べると延べ人数で263人減少。その原因として、呼び寄せ児童生徒数の減少、交通アクセスの問題（教室開催場所とフィリピン人児童生徒の集住地区が離れている）が挙げられる。日本生まれのフィリピン人の子供も集住地域では増えている。それに伴い今後懸念される点として、「母語保持」「ダブルリミテッド」など、子供の言語に関する問題があると考えられる。これらの問題を避けるためにも保護者に言語習得についての知識を提供することが大切だと感じている。

■ベトナム人の子ども学習支援（ティントゥオン教室）（499人）

協力 静岡県ベトナム人協会

会場 三方原協働センター

期間	曜日	時間	参加者（延べ）		
			就学前	小学生	保護者会
6月6日～3月13日 （全36回）	水曜日	18:00～20:00	262	217	20

今年度は、昨年度より人数が少し増えてスタートした。小学生クラスでは、学校から出された宿題だけでなく、講師が出した課題に各人が進んで取り組む状態が続いた。未就学児クラスは、積極的に講師が与えた教材に取り組む姿勢がみられた。特に、ひらがな、数字などの文字の習得に熱心で、年長を中心に小学校へ入学するレベルになったと考える。保護者会も、本年度は「保護者のためのお弁当講座」「保護者のための防災教室」など、従来の学習指導の話聞くだけの保護者会から、有益な情報を楽しみながら学べる保護者会へと変えた事によって、昨年度より参加者が非常に増え、有意義な時間となった。

■ 浜北日本語教室 (2,222人)

協力 浜北国際交流協会

会場 浜北文化センター 他

期間	曜日	時間	会場	参加者 (延べ)
4月7日～3月30日 (全51回)	土・日 曜日	13:30～17:00	浜北文化センター	1,700人
4月7日～3月30日 (全19回)	土曜日	午後	企業出張講座	57人

文化交流

5月	富士山芝桜お花見	40人
7月	日本語能力試験おつかれさま会	38人
10月	浜北産業祭「国際交流亭」、ヘブンスそのはら紅葉、	39人
12月	日本語能力試験受験おつかれさま会	32人
1月	書初め	30人
2月	富士山雪遊び	45人
3月	着物体験会&ひな祭りお茶会	29人

日本語スピーチコンテスト

- ・開催日：平成31年1月27日(日)
- ・会場：なゆた浜北3階「なゆたホール」
- ・出場者：12人
- ・来場者：約200人

3. 外国につながる次世代支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業）

① 外国人の子どもの不就学ゼロ作戦事業

外国籍の就学年齢の子どもで調査対象者に対して、訪問等で実際の状況を確認し、状況に応じて公立学校等への就学につなげる。

■ 就学状況の把握

調査内容

	調査項目	回数	対象
A	新小学校1年生	1回（第1回調査）	4月に小学校1年生相当の年齢になる外国籍の子ども
B	次年度新中学校1年生	1回（第4回調査）	次年度4月に中学校1年生相当の年齢になる外国籍の子ども
C	転入者	6回	新たに浜松市に転入してきた外国籍の子ども
D	退学者	6回	公立小学校、外国人学校等を退学した外国籍の子ども

調査対象者数

(人)

	調査項目	調査対象者	訪問調査前に就学や異動等が確認された者	訪問調査等対象者
A	新小学校1年生	37	21	16
B	次年度新中学校1年生	31	23	8
C	転入者	129	37	92
D	退学者	55	14	41
	合計	252	95	157

調査方法

訪問回数（不在含む）	269回
訪問により面会できた件数	112件
訪問時は不在だったが、差し置き資料により連絡があった件数	32件
外国人学校への照会件数	225件

■平成30年度に行った6回の訪問調査等の結果

項目				報告時点
訪問調査等対象者(157)	浜松市に居住(104)	就学(66)調査及び支援等により、調査期間中に就学が確認できた者	公立小学校	5人
			公立中学校	3人
			私立中学校	0人
			市内外の認可外国人学校	58人
		就学が確認できなかった者(31)	学習支援教室等に在籍あり	23人
			学習支援教室等に在籍なし	8人
		その他対象外案件(7)	市教委に相談あり、手続きが進んでいる段階	5人
			母国や外国人学校等で中学を卒業した者	2人
		居住実態なし(53)訪問調査等により、転居・転出・帰国が確認できた者	居住実態なし	47人
			転出	4人
長期休暇等で来日(母国で在学中)	2人			
合計				157人

【就学が確認できなかった者の属性】

1) 国籍

国籍	人数
ブラジル	19
フィリピン	1
ペルー	6
ネパール	3
パキスタン	2
合計	31

2) 相当学年

小学校	人数
1年生	6
2年生	2
3年生	4
4年生	0
5年生	2
6年生	3
合計	17

中学校	人数
1年生	6
2年生	2
3年生	6
合計	14

小・中学校合計 31 人

■ケースに応じた支援

《平成30年度に行った6回の訪問調査等で就学が確認できなかった者の現在の状況》

(支援・継続調査・就学支援教室当への在籍確認等による動向：平成31年3月31日現在)

項目				報告時点
就学が 確認でき なかった 者 (31)	浜松市 に 居住 (22)	就学(8)	公立小学校	2人
			公立中学校	3人
		継続調査及び支援等 により、就学に結びつ いた者	私立中学校	0人
			市内外の認可外国人学校	3人
		実質不就学(14)	学習支援教室等に在籍あり	10人
			学習支援教室等に在籍なし	4人
	その他対象外案件 (0)	市教委に相談あり、手続きが進んでいる段階	0人	
		母国や外国人学校等で中学を卒業した者	0人	
	居住実態なし(9) 継続訪問調査等により、転居・転 出・帰国が確認できた者	居住実態なし	6人	
		転出	3人	
長期休暇等で来日(母国で在学中)		0人		
合計				31人

■実質不就学(全体)が継続した者の内訳 (平成31年3月31日現在)

*平成29年度末時点で実質不就学と確認された3名を含む

項目		人数
実質不就学(17)	本国政府認可外の学習施設に通っている	2人
	就学支援教室等に通っている(予定含む)	10人
	学校や支援教室に通っておらず、就学予定なし、帰国予定なし	2人
	就学予定あり	3人
	転出予定	0人
全体の合計		17人

【不就学者の属性】

1) 国籍

国籍	人数
ブラジル	10人
フィリピン	2人
ペルー	4人
ネパール	1人
合計	17人

2) 相当学年

小学校	人数
1年生	2人
2年生	1人
3年生	3人
4年生	0人
5年生	1人
6年生	2人
合計	9人

中学校	人数
1年生	2人
2年生	1人
3年生	5人
合計	8人

3) 不就学の期間

期間	人数
半年未満	11人
半年～1年未満	2人
1年～2年未満	3人
2年～3年未満	0人
3年以上	1人
合計	17人

実質不就学者への支援

- ・不就学判明後の家庭訪問、状況確認
- ・教育総合支援センターや就学支援教室、NPOの教室紹介ならびに支援教室見学への同行
- ・関係機関、専門機関との連携

(発達障がいや、虐待が疑われるケースなどの困難事例では、関係機関へ相談、または関係者で集まり今後の支援について話し合う場を設けた)

※支援教室在籍者については、電話連絡などにより定期的に状況確認を行った

■外国人学校スクールカウンセラー派遣（41回）

発達相談支援センター(ルピロ)と連携し、外国人学校にカウンセラー(臨床心理士)の派遣を行った。子どもの不就学理由には家庭の経済的理由だけでなく、発達障害や学習障害が疑われる子ども、複雑な家庭環境により情緒が安定しない子ども等が存在しており、これらの子どもたちが不就学にならないようにするには継続したカウンセリングが必要である。

また、発達相談支援センター(ルピロ)と多文化共生センターにて、年間6回の連絡会を実施し、専門的見地から適切な対処法などについてアドバイスをいただいた。

派遣者 馬塚瑞樹(臨床心理士)

派遣先	学校名	実施スケジュール	実施回数
	エスコラ・アウカンセ学校	第3水曜日 9:30-11:00	4回
	ムンド・デ・アレグリア学校	第2.4水曜日 9:30-12:30	23回
	EAS学校	第3水曜日 11:30-14:30	11回
	合計		38回

※その他、就学促進教室(佐鳴台教室)より要望があり、緊急的に3回実施。計41回

連絡会議	実施スケジュール	会場	実施回数
	隔月第4水曜日 15:00-17:00	浜松市発達相談支援センター(ルピロ) 多文化共生センター	6回

スーパーバイザー 内山 敏氏(浜松市発達相談支援センター所長)

② 定住外国人の子どもの就学促進事業

外国人の子どもの就学促進のため、市内2つの学習機関と連携し、不就学等就学に課題を抱える外国人の子どもの学びの場を確保するとともに、公立学校や外国人学校等教育機関への就学につなげるために必要な支援を実施した。

■在籍数月別推移

佐鳴台教室

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
就学前								3	3	4	4	4	18
小学生				1	1	1	1	1	1	3	3	3	15
中学生	4	4	5	7	7	6	5	6	6	5	4	6	65
学齢超過	2	6	6	6	6	7	5	5	5	5	5	5	63
計	6	10	11	14	14	14	11	15	15	17	16	18	161

雄踏教室

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
就学前	1	1	2	2	2	2	3	3	3	4	5	5	33
小学生	1	2	2	4	4	5	5	6	7	5	3	2	46
中学生	4	5	6	4	3	4	4	3	3	1	1	1	39
学齢超過	0	1	1	1									3
計	6	9	11	11	9	11	12	12	13	10	9	8	121

■国籍別在籍実人数

(人)

国籍	佐鳴台教室	雄踏教室	計
ブラジル	17	20	37
ペルー	3	1	4
ネパール	3		3
フィリピン	2		2
中国	1		1
日本(外国ルーツ)	1	1	2
計	27	22	49

■就学実績等

(人)

就学先等	計
公立小中学校	18
外国人学校	7
公立高校等	5
中卒認定試験	0
計	30

《主な就学先》

浜松市立瑞穂小学校・雄踏小学校・入野小学校・佐鳴台小学校、浜松市立開成中学校・佐鳴台中学校・南部中学校・高台中学校、静岡県立浜松大平台高等学校・新居高等学校、外国人学校ムンド・デ・アレグリア、エスコラ・アレグリア・デ・サベール 等

③ 外国につながる青少年のキャリア支援 (874 人 16 団体) (昨年 699 人 16 団体)

モデル校を選定し、先輩外国人青年からの報告やセミナー・ワークショップ等の開催により、自らの将来について考えるキャリア形成過程への支援を行った。

■外国につながる高校生のための就職応援セミナー

日 時 7月17日(火) ①10:45~12:30 ②19:35~21:15

会 場 静岡県立浜松大平台高等学校

内 容 ・外国にルーツを持つ若者の就職体験談(先輩からの話)
・企業紹介
・個別相談・座談会

参加者 ①Ⅰ・Ⅱ部 所属生徒 約100名 ②Ⅲ部 所属生徒 約50名 合計150名
企業5団体

成 果 今年度から、高校が授業の一環として位置づけてくれたことにより、全員参加となった。先輩の体験談として3人に話をしてもらったが、それぞれ特徴があって意義深かった。一人は大平台定時制卒業生のブラジルルーツの女性で、親近感が高まったと思われる。二人目は、定時制高校からポリテクカレッジに進学し、自動車部品設計の正社員として働いているペルールーツの男性で、ポリテクカレッジという進路の選択肢を示すことができた。さらに、三人目は、高卒後、専門学校に進学せずに働きながら美容師の資格を取得した日本人男性で、経済的に専門学校進学が困難な場合でも道が拓けることを示すことができた。また、正社員で働くことの意味を、生涯賃金や福利厚生の違い、資格取得を含めた社員教育面などについても時間を割いて分かりやすく解説をしたことにより、正社員を目指す重要性が伝わった。ただし、このような日本の雇用習慣については、生徒だけでなく保護者にも理解してもらうことが重要だと学校の側からの指摘があり、次年度は親向けにも理解を促すような工夫を取り入れていく。

■外国にルーツを持つ青少年のための仕事発見セミナー

日 時 7月12日(木) 13:00~15:30

会 場 アクトシティ浜松コングレスセンター21 会議室、展示イベントホール

内 容 ・外国にルーツを持つ若者の体験談(先輩からの話)
・企業ブース見学ツアー(第12回ビジネスマッチングフェア in はままつ協力)
・振り返りワークショップ

参加者 25人

参加校 新居高校(定時制)、浜松北高校(定時制)、浜名高校(定時制)、NPO アラッセ

協 力 浜松信用金庫(第12回ビジネスマッチングフェア in はままつ)

成 果 アンケート回答や引率教員のコメントからは、企業ブースをまわったことで青少年らが「いろいろな仕事があるということを知る」機会になったという声があがった。先輩からの講話でも日本語学習が大切であることが伝わり意欲の向上に寄与できたように思う。引き続き高校(定時制)と連携しながら、青少年が将来を考えるきっかけを作っていきたい。

■関係諸機関とのネットワーク会議

外国人青少年の支援に係る関係諸機関との連携体制を構築するため、ネットワーク会議を実施した。

日 時 5月8日(火) 14:00~15:30

会 場 浜松市外国人学習支援センター

参 加 16団体

静岡県立新居高等学校定時制課程

静岡県立浜名高等学校定時制課程

静岡県立浜松大平台高等学校定時制課程

静岡県立浜松北高等学校定時制課程

静岡県立浜松工業高等学校定時制課程

学校法人イーエーエス伯人学校

学校法人ムンド・デ・アレグリア学校

ハローワーク浜松

NPO 法人フィリピノナガイサ

NPO 法人アラッセ

静岡県多文化共生課 (オブザーバー)

静岡県教育委員会 (オブザーバー)

公益財団法人静岡県国際交流協会 (オブザーバー)

浜松市教育委員会 (オブザーバー)

浜松市国際課 (主催)

公益財団法人浜松国際交流協会 (主管)

内 容 ムンドデアレグリア学校見学、U-ToC 施設見学

平成 29 年度事業報告、平成 30 年度事業説明、参加団体情報交換

■定時制高校へのロールモデルによる出前授業 (出張 COLORS)

趣 旨 外国にルーツを持つ若者グループ「COLORS」が、外国にルーツを持つ高校生に将来について考えてもらうことを目的としたワークショップを行う。支援活動を通して彼ら自身の成長にもつなげる。

日 時 静岡県立浜松大平台高校定時制 (6月4日(月)、11月26日(月)、12月3日(月))
10時45分~12時30分/19時35分~21時15分)

静岡県立磐田南高校定時制 (6月18日(月)、11月12日(月)) 20時10分~20時55分、
12月17日(月) 19時40分~20時15分)

静岡県立新居高校定時制 (10月10日(水)、10月31日(水)、11月14日(水))
20時20分~21時10分)

会 場 静岡県立浜松大平台高校、静岡県立磐田南高校、静岡県立新居高校

対 象 大平台高校定時制、磐田南高校定時制、新高校定時制に通う生徒

参加者 述べ 699 人 (大平台高校 157 人×3 回、磐田南高校 38 人×3 回、新高校 38 人×3 回)

内 容 ①いろいろな人生を知る: COLORS がライフストーリーを紹介、マナークイズ

②自分について考える：自分の長所を挙げる、人生で大切にしたい価値観についてカードソートで考え、友人と話し合う

③将来について考える：夢を達成するために、卒業後から明日までにやることを書き出していく

成 果 大平台高校では、前年度は1回の実施だったが今年度は年に3回実施できた。高校側に授業の一環として出張 COLORS を年間スケジュールに組み込んでもらえたことで実現した。

④ 外国につながる就学前の子どもと保護者の子育て支援(自主事業:自治体国際協会助成)

日本の小学校に入学するブラジル人託児所出身の児童は、語彙の不足や集団行動が苦手であるといった課題があることが指摘されていることから、外国人託児所の保育・教育の質の向上が重要である。このため、特にブラジル人の経営する託児所の質的向上を目指すとともに、ブラジル人保護者の子育てに関する意識の向上も目指し、ひいてはブラジル人児童が就学前に充実した保育・教育を受けられる環境を整備することにつなげるように行った。HICE が一般財団法人自治体国際化協会の助成金を活用して行った。

■ブラジル人託児所対象事業

○ ブラジル人託児所経営者会議実施 (4回)

第1回 6月10日(日)

講 話：「幼児の発達と課題について」

講 師：ダ・シルバ・イリネウ氏 (NPO ブラジル人を支援する会 (SABJA) 心理士)

報 告：外国人保護者アンケート調査(平成29年度実施)(HICE)

参加者：17人

成 果：ブラジル人心理士が子どもの発達に関する講話を行い、託児所側から発達障害等の発見や早めの対応に課題があるとの意思が出た。その対策として、総領事館が各託児所へのブラジル人心理士の派遣を7月から開始された。

第2回 7月22日(日)

講 話「浜松市立小中学校に在籍している外国人の子どもたちの状況と課題」

講 師：桜井敬子氏 浜松市教育委員会 指導課 外国人支援グループ長

参加者：12人

成 果：外国人児童生徒の課題などについて話し合いを行い、託児所の経営者からは保護者に課題があると指摘があった。それに対応し、平成31年度から教育委員会ではプレスクールを開催していく予定である。

第3回 9月2日(日)

講 話「ブラジル人託児所から認可保育園への事例」

講 師：斎藤俊男ワルテル氏(学校法人ティール・エス学園れいんぼー保育園理事長
ブラジル人経営者、2012-2015年度埼玉県親善大使)

参加者数：11人

成 果：現在の託児所について、認可保育園になることが望ましいが、経営者や保育担当者の日本語が不十分なことなどから保育士の免許を取得するのは難しく資金的にも厳しい状況の中で、

日本人の保育士や栄養士を雇うのは困難で、設備の充実にも限界があることが明らかになった。今できることは保育の充実を図ることが重要であることに気づいてもらうことが出来た。

第4回 11月11日(日)

DVD 上映「日本の認可保育園について」

講 和「子どもの発達を支える環境について」

講 師：細田直哉氏(乳児教育専門家) 聖隷クリストファー大学 准教授

参加者：13人

成 果：乳児教育専門家による講師により、子どもが育つ環境を整える工夫を具体的に聴くことで、託児所における環境の改善を資金的に可能な範囲で行う意欲が高まった。保護者だけの責任ではなく、子どもが育つ環境の改善を資金的に可能な範囲で行いたいとの意思が出た。

○日本の保育園の取り組み例の紹介～浜松の認可保育園を参考に」DVD 作成

「しんえい保育園」「マーガレット保育園」各15分程度

成 果：浜松の認可保育園における取組紹介動画(ポルトガル語によるナレーション。HICEのHPにて公開)をみることにより、託児所の経営者から日本の保育園の保育方法を現場で学びたいという希望が挙げられた。

■ブラジル人保護者と子ども対象事業

- 保護者の子育てに関する意識向上のためのイベントを企画・開催 (3回)
- 託児所に通っている子どもに人形劇やストーリーテリング (3回)
 - ・保護者対象に子育てについてのセミナー
 - ・子ども対象に人形劇・ストーリーテリング

託児所	月日	テーマ	参加者数 (保護者)	人形劇 / ストーリーテ リング 講師：サン チアーゴ・ エジジェナ ウダ/平田 マリオ	参加者数 (子ども)
レイノ・ダ・アレ グリア	11月3日 (土)	子どもの保育で重要なこと 講師：ダ・シルバ・イリネ ウ	20人		7人
ラピス・デ・コロ	12月8日 (土)	子どもの保育で重要なこと 講師：ダ・シルバ・イリネ ウ	29人		15人
ピメンティニャ・ キッツ	12月23日 (日)	ペアレント・トレーニング *精神保健福祉センターと 連携	44人		14人

成果：保護者からは子育てについてのセミナーを聴くことは初めてであった保護者が多く、非常に参考になったとの声が多かった。仕事が忙しく子どもとの関わりについて改めて考えるきっかけがみられた。

○ マンガで学ぶ「日本で就学するまでの準備」冊子作成

A5版 32ページ 1,000部（HICEのHP上で公開）

監修：細田直哉氏（聖隷クリストファー大学 准教授）

成果：編集の段階で託児所の経営者や保護者の意見を冊子の内容に反映することができた。

■ 「モニカ&フレンズ in はままつ」（自主事業）

ブラジルの国民的マンガ「モニカ&フレンズ」のジャパントゥアーに際して、作者のマウリシオ・デ・ソウザ氏が日本の文化や学校生活に適用できるためのアドバイスを伝えたり、子どもたちからの相談や質問を受け付けたりする公演を開催した。

日時 11月5日（月）14:00～16:15

会場 浜北文化センター

参加者 1,010人

共催 Alternativa（日伯友愛）

⑤ シンポジウム「浜松市における多文化共生の現状と課題」（自主事業）

浜松市における多文化共生の現状と課題

～2018年度意識実態調査の結果から就学・子育て支援を考える～

日時 平成31年3月15日（金）14:00～16:30

会場 浜松市外国人学習支援センター

内容 ①2018年度浜松市における日本人市民及び外国人市民の意識実態調査結果の概要と考察
調査・分析協力者：丹野清人氏（首都大学東京教授）

②外国にルーツを持つ子供の就学促進（事例紹介）

・外国人の子どもの不就学ゼロ作戦事業 古橋広樹氏（浜松市国際課）

・定住外国人の子供の就学促進事業 金城アイコ氏（NPOアラッセ代表）

③外国人の子育ての現状と課題（報告）

・就学前の外国人の子育てに関する調査から キクヤマリサ（HICE）

・多国籍の子供が集まる託児の現場から 宮本里美氏（NPO法人ころころねっと浜松）

④パネルディスカッション「外国にルーツを持つ子供の就学・子育て支援」

参加者 76人

共催 浜松市（国際課）

⑥浜松グローバルユース育成検討事業（文化庁委託事業）

浜松市では、これまでの多文化共生の取組がブラジル政府からも評価され、2020年東京オリンピック・パラリンピックにむけて、ブラジル柔道チームのほか、ブラジルパラリンピックチーム全種目の事前合宿地として、数百人規模の選手団を受け入れることとなった。このことを契機に、浜松市で生まれ育つ外国にルーツを持つ若者が、外国と日本の両方の文化をいかして活躍する地域づくりを行うための養成事業を検討した。

■運営委員会

年間3回開催（1.5時間×3回）

運営委員：佐藤宏明氏（浜松市企画調整部国際課課長）

嶋田和子氏（一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事）

坂本勝信氏（常葉大学経営学部准教授）

松本雅美氏（学校法人ムンド・デ・アレグリア学校校長）

山崎仁資氏（静岡県立浜松湖南高等学校校長）

今中秀裕氏（公益財団法人浜松国際交流協会業務執行理事）

■浜松グローバルユース養成講座カリキュラム開発会議

年間9回開催（1.5時間×6回、0.5時間×2回、0.75時間×1回）

会議参加者：坂本勝信氏（常葉大学准教授）

岡則子氏（ムンド・デ・アレグリア校コーディネーター）

敷浪のぞみ氏（早稲田大学大学院）

中田貴子氏（With U-Net）

ヒアリング協力団体：静岡県立浜松湖南高等学校、浜松市スポーツ振興課

成果物：

「浜松グローバルユース養成講座～ブラジルチームのアンバサダーになって、応援CMを作ろう～」

32時間（2時間×16回）

「ブラジルオリンピック・パラリンピックチーム応援CMコンテスト in グローバルフェア」

■外国にルーツのある若者のための日本語プロジェクトワーク

日本語で日本人住民に尋ね、調べた結果を日本語でまとめ、それを発表することで、日本語4技能の向上を図った。

【青い月クラス】

講師：中田貴子氏

講義補助者：森川晴美氏、八木さつき氏

受講者：9人（ブラジル8人、ペルー1人）

期間：平成30年6月7日（木）～平成31年1月17日（木） 全24回

【あかつきクラス】

講師：敷浪のぞみ氏

受講者：7人（ブラジル5人、ペルー2人）

期間：平成30年6月7日（木）～平成31年1月17日（木） 全24回

■日本語プロジェクトワーク発表会「調べ学習発表会」

浜松で育つ外国にルーツのある若者が、地域の活力となりうるグローバル人材として社会に広く認知されるよう、プロジェクトワークでまとめたことを、発表会で広く発信した。

【成果発表会（日本語版）】

日時：11月24日（土）10：00～11：00

参加者：70人

- ・これまでの日本語プロジェクトワークで調べた内容を日本語で発表
- ・青い月クラス（プレゼンテーションと質疑応答、2人組×3+3人組×1）
- ・あかつきクラス（プレゼンテーション3人、ポスター発表4人）

【発表会&交流会（複言語版）】

日時：11月29日（木）13：45～15：00

参加者：88人

- ・静岡県立浜松湖南高校英語科1年生とムンド・デ・アレグリア学校高等部学生を招き、発表会と交流会を行う
- ・あかつきクラスより、日本語発表（ポルトガル語資料付き）
- ・青い月クラスより、スペイン語発表（日本語資料付き）
- ・学校間の混合グループで意見交換

【発表会（母語版）】

日時：平成31年1月17日（木）13：00～14：30

参加者：43人

- ・ムンド・デ・アレグリア学校高等部学生を招き、発表会を行う
- ・青い月クラス、あかつきクラスは自身の作品（ポスター等）の前で、母語で発表

4. 地域共生事業（市委託：多文化共生センター事業）

参加者数：延べ200人17件（前年度1123人18件）

① 各地域への個別支援（17件）

地域	内容
県営神田団地 (3件)	ゴミ出しの方法の周知、違法駐車への対応等について相談あり。自治会活動についての案内文章を作成し翻訳（ポルトガル語、スペイン語）。外国人住民への聞き取りと理解のための集会を企画。
葵西自治会 (1件)	翻訳依頼（ポルトガル語）「自治会への加入のお願い」
高丘市営団地 (3件)	外国人住民対象のゴミの出し方説明会を開催支援。市役所の出前講座につなぎ、当日の通訳（ポルトガル語、ベトナム語）を派遣、案内資料などを翻訳。 団地の自治会費の集金や活動についての案内を一連の文章にまとめ、翻訳（ポルトガル語、スペイン語、英語、ベトナム語）。
住吉自治会	ゴミの出し方を外国人住民へ効果的に伝える方法について相談あり

(1 件)	り。既存の翻訳資料等を送付、入手場所を案内。指導や苦情提言という形ではなく、外国人住民にとって有効な情報提供という形で訪問して個別説明するよう提言。
高丘自治会 (1 件)	翻訳依頼 (ポルトガル語、ベトナム語)「自治会費の支払いについて」、資料送付・自治会活動の説明ちらし
浜北県営団地 自治会(1 件)	翻訳依頼 (スペイン語・タガログ語)「ごみを捨てないで！」
舞阪町仲町 自治会(3 件)	ゴミの出し方の周知について相談あり。集積所の看板の一部を翻訳し、設置を廃棄物処理課に依頼。
天王西 自治会(1 件)	翻訳依頼 (英語、ポルトガル語、タガログ語)「草とりに参加してください」
佐鳴湖西団地 (2 件)	翻訳依頼 (ポルトガル語、英語、スペイン語)「役員決めについてのアンケート」「役員決めの会への出席の案内」
元城町 自治会(1 件)	自治会活性化のために、住民対象に英語教室などを開催したいという相談あり。講師の紹介、事業企画のサポートを実施。

② 地域共生自治会会議 (50 人) (前年度 98 人)

「外部の力を借りて取り組む外国人との共生コミュニティづくり～埼玉県芝園団地での取り組み」

日 時 7 月 8 日 (土) 13 : 30～16 : 30

会 場 多文化共生センター

内 容 【第 1 部】 講義「外部の力を借りて取り組む外国人との共生コミュニティづくり
～埼玉県芝園団地での取り組み」

講師：岡崎広樹 (芝園団地自治会事務局長)

【第 2 部】 情報交換・意見交換

参加者 39 自治会 47 人、一般 3 人 合計 50 人

成 果 会場の都合で各自治会 2 人までの参加としたが、あまり外国人住民の多くない自治会からも今後の参考にと参加があり、関心の高さがうかがえた。講師が若くして自治会役員をやっているというところに多くの自治会長らが関心を持ち、非常に好意的に聞いてくれた。芝園団地の取り組みは、最初から多文化共生を目指している講師のような仕掛人がいることで成り立っている面も強いので、浜松市内の団地の活性化にそのまま応用はできないが、自治会役員として地域をよくしようという心意気や工夫する態度については刺激を受けてもらえた。また、このセミナーに参加することで、HICE の自治会支援サービスを知ってもらい、実際に翻訳や通訳を頼んでくる自治会が出てきている。

③ ブリッジビルダー育成 (150 人)

「災害が起こった時も外国人とともに」と題し、外国人とともに地域を作っていく必要性が一番理解されやすい災害時の取り組みを説明し、そのためにも日頃からの付き合いの大切さとそのた

めの「やさしい日本語」について、各区の協議会において話をした。

区名	日程	区名	日程
中区協議会	1月23日(水)	浜北区協議会	11月22日(木)
東区協議会	2月20日(水)	北区協議会	先方の都合により延期
南区協議会	12月19日(水)	西区協議会	2017年度実施
天竜区協議会	11月27日(水)	合計	150名(各区30名)

5. 多文化防災事業 (市委託：多文化共生センター事業)

① 災害時多言語ボランティア養成研修

第1回 「災害図上訓練・防災グッズの使い方」

日 時 6月24日(日) 14:00～16:00

会 場 多文化共生センター

参加者 47人(ブラジル、フィリピン、ペルー、中国、インドネシア、ベトナム、ロシア、アメリカ)

第2回 「遠州病院 災害時訓練での通訳シミュレーション」(災害時に備えたネットワーク強化)

日 時 10月27日(土) 8:45～12:45

会 場 遠州病院、遠州鉄道新浜松駅、アクト通り

参加者 26人(ブラジル、フィリピン、ペルー、中国、インドネシア、ベトナムなど)

第3回 「外国人被害者から外国人支援者へ」

日 時 12月9日(日) 14:00～16:00

会 場 多文化共生センター

講 師 ロクサーナ・オオシロ(ひょうごコミュニティ、Revista Latin-a 代表)

参加者 27人(ブラジル、フィリピン、ペルー、中国、インドネシア、ベトナム、アメリカ、ロシアなど)

成 果 新たなボランティアの募集もかけ、ボランティアを増やすことができた。

② 災害時多言語支援センター設置訓練

日 時 平成31年2月5日(火) 13:30～16:30

会 場 多文化共生センター

参加者 17人(HICE職員14人、浜松市国際課職員3人)

内 容 ・災害時多言語支援センターの概要及びマニュアル・センター備品等の確認
 ・総務班、情報班、翻訳通訳班により、浜松市や静岡県災害時多言語支援センターからの翻訳依頼への対応、県支援センターへの翻訳依頼を実施したほか、机上において外国人の被災状況の把握、相談対応、災害時多言語ボランティアの活動コーディネートなどを行った。

成 果 災害時多言語支援センター運営における作業マニュアルをスタッフが確認するとともに、初めて静岡県災害時多言語支援センターとの合同訓練を行うことで、情報のやり取りや翻訳作業などを緊張感の中で実施することができた。

③災害・防災情報の提供 (4件)

Facebook で災害情報を多言語で発信

災害注意情報 0回 (台風注意報、大雨による避難勧告等)

災害関連情報 4回

月日	内 容	日	ポ	英
6月1日(金)	水難事故にご注意を	319	713	363
6月21日(木)	西区の海岸でサメ目撃情報	481	2,494	423
8月11日(土)	応急手当を学ぼう		631	340
11月8日(木)	防波堤見学会			306

(リーチ数)

6. 多様性を生かしたまちづくり事業 (市委託：多文化共生センター事業)

①はままつ多文化共生 MONTH(月間) 事業

10月を「はままつ多文化共生 MONTH(月間)」として、多文化共生についての啓発を重点的に行った。株式会社ぱどが発行する女性向けフリーペーパー「We:la (ウィーラ)」9月14日号には、見開き2ページで国際交流・多文化共生特集を組んだ。女性に人気の在住外国人によるクッキング講座の様子を取り上げたほか、インドネシア、アメリカ、ベトナム、ブラジルの方のインタビュー記事、その他イスラエル、アメリカ、フィリピン、中国、フランス、ブラジル、ペルー、オーストラリアの方を顔写真で紹介、また、浜松の外国人事情を数字で紹介した。

「中日ショッパー」9月28日号にはピックアップ特集として掲載。外国人学習支援センターの日本語ボランティア養成講座の修了生の活動の様子を取り上げた。ボランティアとして活動する方々のインタビュー記事のほか、多文化体験講座(流しそうめん)の様子を紹介した。

また、A4サイズの啓発リーフレット(2つ折り)を作成し配布した。日本ブラジル移民110周年記念インタビュー記事として、浜松在住28年の日系ブラジル人、浜松出身の日系ブラジル人大学生のライフストーリーを紹介した。また、静岡大学と静岡文化芸術大学に通う留学生を紹介した。

成 果 新聞の折り込みで各家庭にいきわたる中日ショッパーや女性向け雑誌に特集記事を組むことで、関心を持っていない層にも多文化共生や国際交流の情報がいきわたる機会が持てた。啓発リーフレットでは、独自で作成したためコンセプトや内容、字数を自由に設定でき、世代の違う日系ブラジル人のライフストーリーを詳しく紹介することができた。

②文化・スポーツ紹介

Facebookにより浜松市内の主要な文化・スポーツイベント等についての情報を多言語で提供。

19回

③ 地域活性化事業（205 人）

■外国人留学生と企業の交流会

日 時 7月12日（木）13：30～15：30

会 場 アクトシティハママツ コングレスセミナー5階 52会議室、産業展示ホール

参加者 静岡大学留学生 12人（インド、バングラデシュ、インドネシア、マレーシア
中国、スペイン）

ニッセイ日本語学院 3人（ネパール、フィリピン、ベトナム）

内 容 1）講義「日本企業で活躍するために」講師：静岡大学国際連携推進機構
特任教授 大八木智一

2）企業ブース見学ツアー（3つの班に分かれ、各班3社を回る。1班は英語通訳つき）
（株）日本設計工業、共栄（株）、三光製作（株）、（株）システック、山田金属（株）、
ハマニ化成（株）、パイフォトニクス（株）、三和精機（株）、（株）フェイス 21

成 果 浜松信用金庫の協力を得て、「ビジネスマッチングフェア 2018」の出展企業を回り、説明を
受けた。浜松および近隣に高度な技術をもつ企業が多くいることを留学生に知ってもらい非
常によい機会となった。

■日本で起業するためのセミナー

日 時 7月7日（土）10：00～12：00

会 場 多文化共生センター

参加者 43人

内 容 1）日本で起業するための手続等について（在浜松ブラジル総領事館）
2）ファイナンシャルプラン（ブラジル銀行浜松支店）
3）日本で成功した事例（VILMILK 代表）

成 果 在浜松ブラジル総領事館が新たに立ち上げた起業家向けの相談窓口の担当者による説明は
分かりやすく、全体的に満足度の高いセミナーだった。成功事例として、群馬県で日本社会
に農産物を売り出す努力の効果について話した。参加者からはブラジルを対象としたビジネ
スは限られており、日本人との共生の意識向上にもつながることが出来た。

■外国にルーツを持つ高校生のための就職応援セミナー（再掲）

日 時 7月17日（火）①10：45～12：30 ②19：35～21：15

会 場 静岡県立浜松大平台高等学校

内 容 ・外国にルーツを持つ若者の就職体験談（先輩からの話）
・企業紹介
・個別相談・座談会

参加者 ①Ⅰ・Ⅱ部 所属生徒 約100名 ②Ⅲ部 所属生徒 約50名 合計150名 企業5団体

成 果 今年度から、高校が授業の一環として位置づけてくれたことにより、全員参加となった。先輩の体験談として3人に話をしてもらったが、それぞれ特徴があって意義深かった。一人は大平台定時制卒業生のブラジルルーツの女性で、親近感が高まったと思われる。二人目は、定時制高校からポリテクカレッジに進学し、自動車部品設計の正社員として働いているペルールーツの男性で、ポリテクカレッジという進路の選択肢を示すことができた。さらに、三人目は、高卒後、専門学校に進学せずに働きながら美容師の資格を取得した日本人男性で、経済的に専門学校進学が困難な場合でも道が拓けることを示すことができた。また、正社員で働くことの意味を、生涯賃金や福利厚生の違い、資格取得を含めた社員教育面などについても時間を割いて分かりやすく解説をしたことにより、正社員を目指す重要性が伝わった。ただし、このような日本の雇用習慣については、生徒だけでなく保護者にも理解してもらうことが重要だとの学校側からの指摘があり、次年度は親向けにも理解を促すような工夫を取り入れていく。

グローバル感覚に優れた人づくり

1. グローバル人材の育成と活用

① 地球人教育出前講座及びコーディネート

(市委託：多文化共生センター事業) (3, 635 人) (前年度 1, 722 人)

■学校への派遣

学校名	派遣人数		対象/参加者数
	登録ボランティア	専門職員	
浜松市立伊佐見小学校	1 人		小学生 106 人
浜松市立伊佐見小学校	1 人		小学生 106 人
浜松市立南の星小学校	1 人		小学生 125 人
浜松学院中学校	1 人		中学生 22 人
浜松学院中学校	1 人		中学生 19 人
浜松市立開成中学校	1 人		中学生 209 人
浜松開誠館中学校・高等学校	1 人		小学生 25 人
浜松開誠館中学校・高等学校	1 人×4 回		中学生・高校生 166 人 (41 人×2 回、42 人×2 回)
静岡県立浜名高校	1 人		高校生 730 人
静岡県立磐田南高校	延べ 14 人		高校生 114 人 (38 人×3 回)
静岡県立新居高校	延べ 10 人		高校生 114 人 (38 人×3 回)
静岡県立浜北西高校		1 人	高校生 20 名
浜松市立看護専門学校	1 人×4 回	1 人×8 回	看護学生延べ 536 人
静岡文化芸術大学		1 人	大学生 150 人
浜松医科大学		1 人	大学院生 6 人
常葉大学 (経営学部)		1 人	大学生 62 人
常葉大学 (外国語学部)		1 人	大学生 160 人
浜松日本語学院		1 人	日本語教師養成講座 受講者 16 人
名古屋外国語大学		1 人	大学院生 5 人
浜松学院大学		1 人	大学生 30 人
日本弁護士連合会		1 人	弁護士約 300 人
19 校	合計 57 人		合計 3, 187 人

■協働センター等への派遣・コーディネート

派遣先名	派遣人数		対象/参加者数
	登録ボランティア	専門職員	
浜松市鴨江アートセンター	1人		10人
浜松通訳ボランティアガイド HELPの会	1人		25人
浜松市庄内協働センター	4人		高校生 21人
4か所	合計 6人		合計 56人

■学校等からの訪問

学校名・団体名	訪問先・期間		訪問者数
	多文化共生センター	外国人学習支援センター	
静岡文化芸術大学 (インターンシップ)	11日		3人
常葉大学	1日		1人
日本弁護士連合会		1日	7人
静岡大学浜松キャンパス	1日		30人
(一社) 静岡県出版文化会	1日		1人
浜松学院大学	1日		5人
関西学院大学	1日		1人
浜松市立与進小学校	1日		47人
神戸シルバーカレッジ	1日		4人
静岡大学情報学部	1日		20人
(公財) 日本国際交流センター	1日		2人
北海学園大学	1日		21人
浜松学院中学校 1・2年	1日		45人
浜松学院中学校 (職場体験)	1日		2人
静岡県議会総務委員会	1日		13人
静岡大学教育学部附属中学校	1日		6人
静岡大学静岡キャンパス	1日		5人
静岡文化芸術大学 (ポルトガル語受講生)	1日		17人
サンパウロ技術大学	1日		2人

浜松市立積志中学校	1日		1人
浜松中部学園中等部 (職場体験)	1日		2人
香川県	1日		2人
日本福祉大学	1日		1人
甲賀市立水口中学校	1日		1人
金城学院大学	1日		1人
相愛大学	1日		2人
参議院厚生労働委員会調査室	1日		3人
地域を持続可能にする公共資産経営の支援体制の構築研究プロジェクト		1日	10人
法政大学	1日	1日	13人
長崎外国語大学	1日		1人
メルトン市/オーストラリア	1日		1人
香川大学	1日		1人
愛知県立大学	1日		1人
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部	1日		1人
衆議院議員、参議院議員	1日	1日	2人
海城中学校		1日	1人
三島市議会		1日	3人
浜松経済同友会		1日	6人
高島市国際協会	1日	1日	4人
川崎市	1日	1日	3人
NTTネオメイト四国支店	1日	1日	1人
(公財)ひろしま国際センター、広島大学大学院	1日		1人
立教大学大学院	1日		1人
(株)日本総合研究所	1日		1人
ブラジルの公的機関	1日		3人
立教大学	1日		1人
サンパウロ大学	1日		1人
法務大臣、衆議院議員		1日	2人
上智大学・立命館大学・福井県立大学合同ゼミ	1日		24人
静岡大学浜松キャンパス	1日		1人

北九州市	1日	1日	5人
熊本県	1日		4人
岩手県	1日		3人
エル・ムンド日刊紙		1日	2人
滋賀県草津市議会		1日	3人
富山県黒部市議会		1日	8人
兵庫県国際高校	1日		25人
山口市	1日		2人
静岡市	1日		3人
明治学院大学	1日		5人
総務省行政評価局	1日		4人
61団体	延べ77日		合計392人

■天皇皇后両陛下私のご旅行による浜松市外国人学習支援センターご視察

11月28日(水) 日本語教室、支援者のためのポルトガル語講座

② グローバル人材セミナー（市委託：多文化共生センター事業、自主事業）

■マジョリティ側から考える多文化共生のコツ（市委託：多文化共生センター事業）

日時 7月29日(日)13:30~16:00

場所 多文化共生センター

共催 はままつ国際理解教育ネット

講師 出口真紀子氏（上智大学外国語学部准教授）

内容 差別や人権問題について、マイノリティ側ではなくマジョリティ側について考えることで、マジョリティがどのような「特権」を持っているか、その特権に気付かないことがいかに弱者にとって生きにくい社会を作り上げているか気付きを促した。

参加者 32人

■フォトジャーナリスト久保田弘信が見た報道されないイエメンの現状（自主事業）

日時 5月19日(土)13:30~15:30

場所 多文化共生センター

講師 久保田弘信氏（フォトジャーナリスト）

内容 久保田氏が写真とともに、イエメン政府側と反政府側の支配地域の両方で取材したイエメンの国民の日常生活の姿、取材の裏話などを紹介。センター前の展示パネルには写真を14枚展示した。

参加者 40人

■看護師の私が JICA 青年海外協力隊としてガーナで体験したこと（自主事業）

日 時 5月27日(日)14:00~16:00

場 所 多文化共生センター

講 師 山口実香氏 (JICA 静岡県デスク)

内 容 JICA ボランティアの説明、応募した理由、ガーナの紹介、児童労働・フェアトレード、感染症・エイズ対策について

参加者 30人

③ 国際理解教育講座（自主事業）(83人)（前年度 58人）

■親子で学ぶわくわく教室「糸紡ぎ体験しませんか？」

日 時 4月14日(土)10:00~12:00

場 所 多文化共生センター

主 催 はままつ国際理解教育ネット

共 催 はままつフェアトレードタウン・ネットワーク

講 師 はままつ国際理解教育ネット 三田景子氏、大島たまよ氏

内 容 今着ている服が海外で作られるまでの順番や背景を、カード並び替えクイズで考え、実際に綿から糸を作る体験をした。その後、児童労働や学校に通えない世界の子について親子で一緒に考えた。

参加者 10人

■「国際理解教育ファシリテーター養成リレー講座」

場 所 多文化共生センター

主 催 はままつ国際理解教育ネット

内 容 多文化共生、貧困、環境問題などの今日的課題について取り上げ、国際理解教育に関する概要を学ぶとともに、ファシリテーターとしてのスキルの取得を目指す。

	日 時	内 容	講 師	参加者
1	10月27日(土) 13:30~17:00	「国際理解と多文化共生～世界の人と暮らすためのまちづくりを考えよう～」	はままつ国際理解教育ネット 中澤純一氏	20人
2	11月10日(土) 13:30~17:00	援助と国際協力～「援助」する前に考えよう	はままつ国際理解教育ネット 畠中順也氏・和田園子氏	17人
3	12月2日(日) 13:30~17:00	環境問題と労働問題～やってみよう！アクティブラーニング～：パーム油の話	はままつ国際理解教育ネット 瀬戸誠氏	19人
4	12月8日(土) 10:00~17:00	あなたも今日から国際理解教育ファシリテーター	はままつ国際理解教育ネット 小林祐輝氏	17人

④ 第9回はままつグローバルフェア（自主事業）（4,700人）（前年度5,300人）

目的 ①広く市民（特に次世代を担う子ども・若者）に呼び掛け、国際交流に参加するはじめての
一歩の機会とし、文化を通じた多文化共生の社会づくりにつなげる。外国人と日本人同
士の交流の場を提供し、気軽に多くの方に参加してもらう機会とする。

②浜松市内で国際理解や多文化共生、国際協力に関わっている団体や個人に企画者として
参加してもらうことで、団体間の協力関係を構築する。より多くのアマチュアの市民グ
ループにダンス・音楽などのステージに参加してもらうことで発表の機会を提供する。

日時 平成31年2月10日（日）10:00～17:00

場所 クリエイト浜松

参加者 約4,700人

主催 公益財団法人浜松国際交流協会、はままつ国際理解教育ネット、公益財団法人浜松市文
化振興財団（クリエート浜松）

後援 浜松市、浜松市教育委員会、独立行政法人国際協力機構中部センター（JICA 中部）、静岡
新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、NHK静岡放送局・浜松支局、FM Haro!、K-mix

内容

1階			
会場	ブース名	担当	内容
ふれあい広 場	アートマイル	JICA	世界の子どもと日本の子どもがコラボで描いた巨大絵画 展示
	ワールドマーケッ ト	HICE	海外の雑貨やフェアトレードグッズで世界を感じるお買 い物
	パネル展示	HICE	国際交流団体などの活動紹介パネルの展示
創造活動室	食堂	HICE	食事スペース
外：中庭	世界の料理	HICE	世界の料理の販売
2階			
ホール	開会式	HICE	主催者あいさつ、来賓あいさつ（副市長、ブラジル総領事）
	ワールドステー ジ	HICE	浜松市内の各国グループによるダンスなどのパフォーマ ンス
ホール前	民族衣装体験 ストラップづくり	JICA はま国	JICA ブース、民族衣装体験 フェアトレードビーズでストラップづくり
21 講座室	巨大積み木	オイスカ	間伐材をつかった積み木で巨大なオブジェをつくる
22 講座室	国際理解教育 WS	はま国	国際理解教育ワークショップ
4階			
HICE 事務局	本部・総合案内所	HICE	総合案内所、スタンプラリーゴール
多文化共生 センター前	パネル展示	HICE	HICE 関係 パネル展示
5階			
スタジオ	イスラム文化体験	HAMKA	イスラム文化体験
51 会議室	留学生ワールド	グローバルハウ ス	浜松市内の留学生とおしゃべり

54 会議室	日本文化体験	フレクティブ	利き茶体験
和室 1 (萩)	日本文化体験	Yumehana school	着付け
和室 2 (松)	日本文化体験	浜松ユネスコ協 会	茶道体験

⑤ 多文化体験・交流事業(市委託:外国人学習支援センター事業)(2,527人)(前年度1,604人)

外国人学習支援センターにおいて、日本文化を含む様々な国の文化を体験するような講座を実施した。

■多文化体験(受講者数 延べ 273人)

	日程	コース	講師	参加者
1	5月23日(水)	校外学習	おしゃべりタイム	44人
2	7月17日(火)	防災訓練	HICE職員	39人
3	8月1日(水)	流しそうめん	おしゃべりタイム	49人
4	8月9日(木)	ホストタウン・ボランティア養成	椎木豊美マリナ氏	19人
5	10月11日(木)	ホストタウン・ボランティア養成	椎木豊美マリナ氏	20人
6	12月4日(火)	みかん狩り	おしゃべりタイム	41人
7	1月10日(木)	防災訓練	HICE職員	31人
8	2月28日(木)	ひな祭り	おしゃべりタイム	30人
合計				273人

■多文化イベント

	第1回	第2回	第3回
テーマ	フェスタジュニーナ (ブラジルの収穫祭)	浴衣 de 盆踊り	文化祭
開催日	7月1日(日)	8月4日(土)	11月24日(土)
場所	イーエーエス伯人学校	雄踏小学校	外国人学習支援センター
協力	セメンチ パラ オ フトゥーロ	おしゃべりタイム	HICE職員
参加者	500人	54人	1,700人
合計			2,254人

⑥ホストタウン・ボランティア養成のための講座(市委託:外国人学習支援センター事業)

■東京 2020 ブラジルホストタウン入門セミナー Vamos!!ブラジルスポーツ事情

	日時	講師	参加者
1期	8月9日(木) 13:30~15:30	椎木豊美マリナ氏	19人
2期	10月11日(木) 13:30~15:30	椎木豊美マリナ氏	20人
合計			39人

2. 国際交流・理解事業

1) 外国語講座

①国際交流のための外国語講座(自主事業)(204人)(前年度188人)

■国際交流のためのタイ語講座:初級(全12回・全8回)

講師	キッパームチャルーン・チュダー		
日程	火曜日 19:00~20:30		
第2期	9月11日~11月27日(全12回)	7人	受講者 合計14人
第3期	1月8日~2月26日(全8回)	7人	

■国際交流のためのポルトガル語講座:初級(全12回・8回)

講師	柳澤クリスティーナ		
日程	火曜日 19:00~20:30		
第1期	5月8日~7月24日	11人	受講者 合計31人
第2期	9月11日~11月27日	11人	
第3期	1月8日~2月26日	9人	

■国際交流のための英語講座:中級(全12回・全8回)

講師	マーティン・ギブズ		
日程	水曜日 10:00~11:30		
第1期	5月9日~7月25日(全12回)	15人	受講者 合計43人
第2期	9月12日~11月28日(全12回)	15人	
第3期	1月9日~2月27日(全8回)	13人	

■国際交流のための英語講座:上級(全12回)

講師	第1期 ヴィジェイ・パーテル 第2期 ジェームス・アシュリー		
日程	木曜日 19:00~20:30		
第1期	5月10日~7月26日	7人	受講者 合計15人
第2期	9月13日~11月26日	8人	

■国際交流のためのフランス語講座：初級（全12回・8回）

講師	クニオ・パスカル		
日程	水曜日 19:00～20:30		
第1期	5月9日～7月25日	10人	受講者 合計26人
第2期	9月13日～11月29日	10人	
第3期	1月9日～2月27日	6人	

■国際交流のためのベトナム語講座：初級（全12回・8回）

講師	坂井亜美		
日程	水曜日 19:00～20:30		
第1期	5月9日～7月25日	15人	受講者 合計40人
第2期	9月13日～11月29日	15人	
第3期	1月9日～2月27日	10人	

■国際交流のためのポルトガル語講座：初中級（全12回）

講師	柳澤クリスティーナ		
日程	木曜日 19:00～20:30		
第1期	5月10日～7月26日	10人	受講者 合計18人
第2期	9月13日～11月29日	8人	

■国際交流のためのインドネシア語講座：初級（全12回・6回）

講師	川越レニ		
日程	金曜日 19:00～20:30		
第1期	5月11日～7月27日	11人	受講者 合計31人
第2期	9月14日～12月7日	15人	
第3期	1月11日～2月15日	5人	

■国際交流のためのスペイン語講座：初級（全12回・6回）

講師	野国マリエラ		
日程	金曜日 19:00～20:30		
第1期	5月11日～7月27日	11人	受講者 合計31人
第2期	9月14日～12月7日	15人	
第3期	1月11日～2月15日	5人	

②国際交流のための外国語サロン（自主事業）（254人）（前年度 242人）

■英語を通じて世界を知ろう！「世界のE-文化」(217人)

時 間 13:30～15:30

会 場 多文化共生センター

日程	講師	参加者
4月15日(日)	ポール・シュワー (カナダ)	20人
5月20日(日)	ヘンナ・タヴァナイネン (フィンランド)	22人
6月10日(日)	スティーブン・サワディセービ・ミキ・プレネボ (アメリカ)	18人
7月22日(日)	JC・デュヴィヴィエ (ベルギー)	18人
8月19日(日)	ダニエル・フィン (イギリス)	18人
9月9日(日)	キャサリン・オラム (カナダ)	18人
10月14日(日)	アンダラ・レレンザ (インドネシア)	14人
11月18日(日)	ヘイリー・グオ (ニュージーランド)	18人
12月16日(日)	ニッキー・カルロス (アイルランド)	20人
1月20日(日)	ダニエル・ペディアコ (ガーナ)	14人
2月17日(日)	アマンディーブ・コア (インド)	17人
3月17日(日)	アテフ・アルジョール (ヨルダン)	20人
合計		217人

■英文小説を読んで英語を学ぼう！：全6回／上級以上 (TOEIC700点以上)

講師	マーカス・スプリンガー		
内容	英語の短編を読み、アメリカ人講師と英語で話し合う。		
時間	19:00～20:00		
第1期	5月16日～7月25日 (第2・4水曜日)	10人	受講者 合計 20人
第2期	9月19日～11月28日 (第2・4水曜日)	10人	

■英文小説を読んで英語を学ぼう！：全6回／中級以上 (TOEIC450点以上)

講師	マーカス・スプリンガー		
内容	英語の短編を読み、アメリカ人講師と英語で話し合います。		
時間	19:00～20:00		
第1期	5月9日～7月18日 (第1・3水曜日)	9人	受講者 合計 9人

■ポルトガル語サロン：移民110周年について (1回)

講師	マエダ・ジュニオール		
内容	移民110周年とブラジル人デカセギについて		

日程	9月1日（土）10：00～11：30		
会場	多文化共生センター	8人	受講者 合計8人

③外国人支援者のためのポルトガル語講座

（市委託：外国人学習支援センター事業）（346人）

場 所 外国人学習支援センター

協力団体 セメンチ・パラ・オ・フトゥーロ

外国人支援者のために役に立つポルトガル語や、ブラジル社会、教育事情などについて学ぶ講座

	日程	参加者
1期	5月24日～8月2日（11回）13:30～15:00 木曜・入門コース	176人
2期	10月4日～12月20日（11回）13:30～15:00 木曜・初級コース	170人
合計		346人

2）交流イベント（自主事業）参加者数：延べ886人（前年度1,047人）

①親子で ENGLISH・キッズ ENGLISH（551人）

未就学児の親子（親子で ENGLISH）・小学校1年生から3年生までの児童（キッズ ENGLISH）がフィリピン人英語講師達と歌やゲームを通して、楽しく英語に親しみながら参加者どうしの交流も行った。

日 時	4月 15日	5月 13日	6月 10日	7月 15日	9月 9日	10月 21日	11月 18日	12月 2日	12月 9日
	日曜日 10:00～11:30								
場 所	多文化共生センター								
講 師	Filipinos English Teachers in Japan (FETJ)								
参加者	66人	59人	61人	55人	58人	97人	58人	40人	57人
	合計						551人		

②多言語 de 世界のクッキング体験（143人）

英語やその他の言語で、浜松在住外国人の講師からその国の家庭料理を学び、交流した。

共 催 NPO法人 FRECTiVE

時 間 10：00～12：30

会 場 クリエイト浜松クッキングルーム、曳馬協働センター

日程	内容	参加者
5月27日(日)	ドイツ語と英語でドイツ料理	25人
6月17日(日)	韓国語で韓国料理	18人
7月22日(土)	中国語で台湾料理	11人
8月11日(土)	インドネシア語と英語でインドネシア料理	15人
9月9日(日)	英語でニュージーランド料理	22人
10月21日(日)	英語でシンガポール料理	30人
11月18日(日)	ベンガル語と英語でバングラデシュ料理	22人
合計		143人

③ダビッドさんと英語であそぼう！ (57人)

■親子で English

対 象 1歳～3歳の親子

内 容 手遊び、読み聞かせ、歌、ボール遊びなどを通じて英語にふれた。

日 時 8月4日(金) 10:00～11:30

会 場 多文化共生センター

講 師 ダビッド・マーテル

参加者 22人

■英語で親子クッキング

対 象 4歳～小学6年生の親子

日 時 8月6日(日) 10:00～12:00

会 場 クリエート浜松クッキングルーム

講 師 ダビッド・マーテル

内 容 バナナスプリット(アイスの両側にバナナを添えてクリームなどをトッピングしたデザート)を作りながら英語と日本語を交えて交流した。

参加者 35人

④第8回ポルトガル語スピーチコンテスト (135人)

日 時 11月25日(日) 13:00～17:00

会 場 多文化共生センター

テーマ 日本ブラジル移民の100年記念～ブラジル人と日本人との絆

出場者 第1部門:(18歳以上のラテン系の4言語(ポルトガル語、スペイン語、フランス語、イタリア語)を母語としない方) 10人

第2部門:(日本の学校に通っている8歳から高校3年生までの学生) 10人

第3部門:(ブラジル学校に通っている12歳以上の学生) 10人

参加者 105人

共 催 在浜松ブラジル総領事館

⑤HICE35周年記念誌刊行イベント（自主事業）

「世界の人と暮らしてみえる地域」

日時 8月25日（土） 15：00～21：00

内容 第1部 「記念誌を通じて多文化を体験する」

15：00～16：30 多文化スポットガイドツアー

17：00～19：00 料理ワークショップ

第2部 「記念誌やmieruを通じて地域の伝え方を考える」

19：30～21：00 クロストーク

影山裕樹氏（合同会社千十一編集室代表）

飯田将平氏（デザイナー）

榊原充大氏（建築家／リサーチャー）

辻琢磨氏（media project Untenor）

植野聡子氏（media project Untenor）

内山夕輝（HICE）

参加者 33人

3. 担い手の育成：ボランティア活動支援事業（自主事業）

① HICE ボランティアバンクの運営（2,221人）（前年度2,050人）

通訳・翻訳、日本語教育、ホームステイ、イベント、出前講師に関する市民ボランティアの活動を推進した。

＜ボランティアバンク登録人数＞ 6区分

出前講師ボランティア	200人
通訳・翻訳ボランティア	459人
日本語教師ボランティア	399人
ホームステイボランティア	293人
情報提供ボランティア	193人
イベントボランティア	677人

合計： 延べ2,221人

② ホームステイ・コーディネート（149人）

■ コロラドカレッジ「まちづくり・研究プロジェクト」にて来日する学生たちのホームステイをコーディネート

依頼者 静岡文化芸術大学

期間 7月5日～7月9日（4泊5日）

参加者 コロラドカレッジ学生4人、ホストファミリー4家庭

■ JICE「JENESYS ASEAN 第4陣」をコーディネート

依頼者 一般財団法人 日本国際協力センター（JICE）中部支所

期間 10月5日～10月7日（2泊3日）

参加者 ナンヤン・ポリテクニク（シンガポール）の学生 18 人
 ホストファミリー8 家庭

■「静岡大学留学生ホームステイ体験」をコーディネート

依頼者 静岡大学 国際交流センター

期 間 11 月 16 日～11 月 18 日（2 泊 3 日）

参加者 留学生（インドネシア、韓国、インド、バングラデシュ）8 人、
 ホストファミリー7 家庭

■ JICE「MIRA プログラム 第 2 グループ」における訪日団をコーディネート

依頼者 一般財団法人 日本国際協力センター（JICE）国際交流部

期 間 12 月 8 日～12 月 9 日（1 泊 2 日）

参加者 欧州各国の大学生及び大学院生 20 名
 ホストファミリー8 家庭

4. 担い手の支援：国際交流活動支援事業

①多文化共生・国際交流推進事業費補助金の交付（34 件）（前年度 24 件）

浜松市内で活動する多文化共生・国際交流関係団体を支援するため、多文化共生・国際交流推進事業費補助金を交付した。 (円)

No.	主催団体	対象事業	交付確定額
1	NPO 法人浜松外国人子ども教育支援協会	まつっこ保護者のための日本語教室	225,000
2	龍の会	外国籍児童生徒への日本語教育と学習支援	249,000
3	KSC 子どもサポーターズクラブ	外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援	400,000
4	そらの会	放課後そらの会（学習支援事業）	300,000
5	特定非営利法人日本語教育ボランティア協会	ジャボラ日本語教室	243,000
6	KSC 子どもサポーターズクラブ	外国にルーツを持つ子どもたちへの夏休み学習支援	50,000
7	NPO 法人フィリピンナガイサ	高校進学支援事業	84,000
8	特定非営利活動法人ARACE	アラッセ希望教室	349,000
9	特定非営利活動法人ARACE	アラッセ 日本語教室	69,000
10	NPO 法人AIPEACE	日本語及び日本社会に関する学習支援事業	500,000
11	中国文化交流会	中国人のための日本語勉強会	170,000
12	NPO 法人浜松日本語・日本文化研究会（にほんごNPO）	外国人住民に対する日本語学習支援「にほんご日曜教室」	500,000

13	NPO法人浜松日本語・日本文化研究会（にほんごNPO）	外国人住民に対する日本語学習支援「にほんご木曜教室」	250,000
14	イタリア演劇団の浜松公演を応援する会	イタリア文化学習に関わる事業	120,000
15	International Institute of Education and Culture	第1回浜松PLH(継承言語) シンポジウム	74,000
16	YACHAY	スペイン語 読み・書き・会話教室 YACHAY	425,000
17	わたぼうしブランドデザイン 浜松インターナショナルスクール	Passing the Baton Project (継承語教授法習得を目的とした教師養成事業)	100,000
18	NPO法人フィリピンナガイサ	FN 地域活性化事業 (スポーツ大会・ダンスコンテスト)	233,000
19	浜松市中学野球国際親善育成会	第28回国際親善中学野球交歓試合 台湾大会	50,000
20	NPO法人浜松日中文化交流会	国際交流の集い (留学生との交流イベント)	94,000
21	浜松市浜北日中友好協会	日中友好交流事業	145,000
22	湖北MAG I C	国際交流(台湾) 研修旅行	42,000
23	アソシアシオン シビルゲス ティオン シウダダナ	ペルー共和国の独立197周年記念を祝う 愛国者の日 2018 (ソラモでのペルー文化交流事業)	133,000
24	浜松インドネシア友好協会	インドネシア・フェスティバル in 浜松 (日本インドネシア国交60周年記念事業)	137,000
25	BRASIL A2	Brasil A2 Forro Festival (ブラジル文化のダンスによる国際交流イベント)	37,000
26	一般社団法人グローバル人財サポート浜松	浜松ダバオ国際交流事業	52,000
27	FJU JAPAN	LEARN TO SAY “NO” (スポーツ大会を通じた国際交流)	57,000
28	エジナホンダプロダクション	B R A S I L D A Y 2018 (ブラジル文化紹介イベント)	146,000
29	特定非営利法人浜松外国人子ども教育支援協会	外国につながりをもつ子どもたちの就学前支援事業	76,000
30	Don・Bosco 学習支援グループ	日本語及び日本社会に関する学習支援事業	200,000
31	特定非営利活動法人浜松ミュージック・アート少年団	第2回ネグロニズトリオ (Negrini's Trio) ライブツアー	213,000
32	Peruvian Events Promoter (P. E. P)	ペルー クリスマス フェスタ	85,000

33	細江町国際交流協会	在住外国人との料理交流フェア	50,000
34	NPO法人浜松日中文化交流会	国際交流春節の集い（国際交流）	120,000
合計			5,978,000

②天竜地域事業（496人）

■日本語教室（市委託：外国人学習支援センター事業）

期 間 平成30年4月8日～平成31年3月24日

日曜日 10:00～11:30 全42回

場 所 二俣協働センター他（天竜区二俣町）

内 容 会話クラス、児童生徒日本語クラス

受講者 登録者数 22人 参加者数 延べ135人

国籍 インドネシア、ブラジル、タイ、ペルー、中国

■英会話教室（自主事業）

場 所 二俣協働センター

講 師 フォーシーズンズ外語学院より派遣

コース	前期	参加者	後期	参加者
初級 (月) 10:00～11:30	4月16日～9月10日 全18回	7人	10月15日～3月11日 全16回	6人
上級 (木) 19:30～21:00	4月19日～9月13日 全18回	8人	10月18日～3月14日 全16回	6人
合計 27人				

■イングリッシュ・ブック・ディスカッション（自主事業）

天竜区内在住のアメリカ人英語講師により、英文小説を読み、英語でストーリーについてディスカッションすることで、英語のスキルアップを目指した教室を開催。中級（TOEIC450点以上）。

場 所 光明ふれあいセンター（天竜区山東）

前期(12回)	後期(12回)	合計
4月14日(土)～9月22日(土)	10月13日(土)～3月23日(土)	
7人	7人	14人

■協働センターでのふれあいまつり参加（自主事業）

日 時 平成31年2月17日(日) 9:00～14:30 場 所 光明ふれあいセンター

日 時 平成31年3月3日(日) 9:00～14:00 場 所 二俣協働センター

内 容 世界を知ってもらうためのクイズとHICE活動紹介

参加者 合計約320人

③ セミナールームの活用 (市委託:多文化共生センター事業) (9,902人)

(前年度 8,995人)

浜松市多文化共生センターのセミナールームをオープンルームとして一般に公開するとともに、講座・セミナー等の事業活動に利用した。

年間利用者数 9,902人

④ 多文化共生・国際交流活動支援事業 (市委託:多文化共生センター事業)

■ 多文化共生活動団体への支援及び助言

- ・ 外国にルーツを持つ若者グループ (COLORS) 活動支援 (出前講座)

静岡県立大平台高校 (3回)、静岡県立磐田南高校 (3回)、静岡県立新居高校 (3回)

- ・ 国際交流を進めるグループ (NPO 法人 FRECTiVE:フレクティブ) 活動支援

「多言語 de 世界のクッキング体験」事業共催 年7回

- ・ フィリピン人の英語の先生のグループ (Filipinos English Teachers in Japan:FETJ) の活動支援

日本人・フィリピン人の3歳から7歳までの子ども連れの親子を対象に、歌やゲームを通して楽しく英語に親しみながら参加者どうしの交流を行う会「親子で English」の開催を支援。

日曜日 10:00~12:00 開催 年9回

- ・ 国際理解教育活動を進める市民グループ (はままつ国際理解教育ネット) の活動支援

国際理解教育の担い手となる人材育成のための「国際理解教育ファシリテーター養成講座」の開催を支援。(4回)

- ・ フェアトレード推進の市民団体「はままつフェアトレードタウンネットワーク」の活動支援

浜松市でフェアトレードを推進している市民団体が定例ミーティング (月1回程度) を開催したり、イベント (「アースデイ 2018」年4月22日 (日) 会場:浜北森林公園) を開催するのを支援した。

■ 多文化共生活動者ネットワーク化事業

「補助金説明会&国際交流・多文化共生情報交換会」

日 時 6月2日 (日) 14:00~16:00

場 所 多文化共生センター

内 容 ・ 多文化共生・国際交流推進事業費補助金の説明
・ 各団体の活動紹介及び情報交換

参加者 10団体 16人

5. 情報提供事業

① 機関紙 HICE NEWS の発行 (自主事業)

当協会の活動内容や講座等を掲載。日本語、ポルトガル語、英語の三ヶ国語で発行し、HICE 会員や外国人児童生徒の保護者、外国人学校、協働センター等の公共機関に配布・設置した。

発行部数：日本語版 2,000部 ポルトガル語版 2,200部 英語 800部 合計 5,000部
 発行回数：毎月1日発行（1月を除く） 年11回

② ホームページの運営（自主事業）

ホームページアクセス合計数 123,334件				
	日本語	ポルトガル語	英語	中国語
HICE	○	○	○	-
多文化共生センター	○	○	○	○
外国人学習支援センター	○	○	○	○

③ Facebook の運用（自主事業）

「いいね」合計数 3,311件

④ HICE info メールによる情報配信（自主事業）

会員・ボランティア等に情報を配信。年間35回配信。

配信先 3,319人

⑤ CIR NEWS の配信（自主事業）

国際交流員（CIR）による英語・日本語併記の文化紹介メールマガジンを毎月配信

配信先 888人

⑥ 情報カウンターの設置（市委託：多文化共生センター事業）（5,798人）

（前年度 5,372人）

情報カウンターにボランティアを配置、外国人市民・日本人市民に対し、必要な情報を提供した。

延べ提供数	外国人	日本人	合計
	2,157人 (2,345人)	3,641人 (3,027人)	5,798人 (5,372人)

事業報告の附属明細書

平成30年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款8条(2)に規定する事業報告の附属明細書は作成しない。